平成２６年度

事　業　報　告　書

自：平成２６年４月　１日
至：平成２７年３月３１日

公益財団法人　琵琶湖・淀川水質保全機構

概　　況

平成26年度は法令・定款等の遵守（コンプライアンス）や情報開示による透明性確保を基本に、自己責任に基づく健全で安定的な経営基盤の維持と、広く公益の実現に貢献すること並びに社会からの期待にふさわしい事業運営を目指すことを使命に、積極的な事業活動の展開を目指した。

管理運営活動では、所要の会議を開催することにより関係者との協議・合意形成を図った。また事業活動では、「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標を掲げ、琵琶湖・淀川流域の水質保全、健全な水環境の実現に向けた調査研究や研究助成を積極的に行うとともに、水環境情報の収集・解析・提供や水質浄化に係わる広報・啓発活動を通じて、流域内での連携や水環境保全活動の推進を図り、琵琶湖・淀川流域の水環境課題の解決に向けた取組みを展開した。特に今年度から琵琶湖・淀川流域の子供達やＮＰＯ法人が行う水質保全活動を対象にした助成事業を開始した。

Ⅰ．管理運営活動等

１．　評議員会、理事会、評議員会・理事会幹事会等

評議員会、理事会、評議員会・理事会幹事会、府県市担当者会議では、事業運営全般について審議検討を行った。

（１）評議員会

第１回評議員会　　平成２６年６月３０日（於：ホテル阪急インターナショナル）

第２回評議員会　　平成２７年２月２３日（於：ホテル阪急インターナショナル）

（２）理事会

第１回理事会　　決議の省略により実施
（決議があったと見なされた日：平成２６年４月１日）

第２回理事会　　平成２６年６月６日（於：國民會館武藤記念ホール）

第３回理事会　　決議の省略により実施
（決議があったと見なされた日：平成２７年９月１６日）

第４回理事会　　平成２７年２月１３日（於：大阪府立男女共同参画・青少年センター）

（３）評議員会幹事会・理事会幹事会

第１回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議
平成２６年５月２９日（於：國民會館武藤記念ホール）

第２回評議員会幹事会・理事会幹事会合同会議
平成２７年２月３日（於：國民會館武藤記念ホール）

（４）府県市担当者会議

第１回府県市担当者会議

平成２６年１１月２７日（於：大阪府立労働センター）

Ⅱ．研究開発事業等

平成26年度は、平成25年度に引き続き、琵琶湖・淀川流域の水質保全の課題について「遊んだり、泳いだりするのに適した河川や湖にする」という目標のもと、自主研究や研究助成、広報・啓発などの事業を実施した。

１．　水質保全調査研究開発事業(自主事業)

流域全体で取り組むべき課題や効率的な方策を念頭に、これまでの調査研究を活かした公共用水域への流入汚濁負荷の削減、発生源の把握、有効な対策手法の検討、および、琵琶湖・淀川流域の水質関連情報を収集整理し水質変化の分析ツールとしての図化を進めている。さらに、流域全体からみた対策の評価や新たな問題、今後の水系水質保全、管理のために寄与する調査研究を実施している。

（１）生活環境保全対策・健康リスク問題に関わる調査検討

①　流域水質管理における面源負荷発生源の調査研究

琵琶湖･淀川流域の市街地ノンポイント汚染の１つである道路排水の汚濁負荷に対し、水質保全の問題解決に向けた基礎的知見を得るため、初期道路排水の水質特性を車輌排水、道路塵埃の視点から比較検討した。

その結果、道路排水は90%以上が微粒子の形態で存在、道路塵埃中のTOC含有量と平日24時間交通量(台/日)には相関がみられる、有機性汚濁物質は道路塵埃以外に雨天時走行の車輌から流出する排水も影響する、等の成果を得た。

②　琵琶湖・淀川流域を捉えた水質データの解析

平成24年度より、琵琶湖・淀川流域の20年間のデータを10年毎に整理しGIS上に表記することで、面的情報「見える化」による分析ツールの開発を行っている。また、これらを利用して、流域の水質変化と気象、汚濁負荷や水質保全対策等関連する項目の解析に役立てることを目指している。

平成26年度は、雨水貯留浸透施設の分布図を作成した。情報収集が困難であったものの、都市域での雨水対策やCSO対策を進めている地域を明確に読み取ることができた。また、水温データの充実を図り、サケ･マス類に影響する夏季25℃超えは、琵琶湖流入河川は10年前に顕著であり、三川合流付近から淀川合流後は年々増加する傾向が見られた。冬季最低水温は、桂川下流部や淀川中･下流の支川で10℃を超えていることがわかったが、淀川本川では変化は見られなかった。

これらデータはHPに掲載すると共に概要の冊子も作成した。

（２）自主調査研究成果の外部公表、講演活動等

①　学術誌での論文公表（査読有）

「琵琶湖・淀川流域における水質に関するデータ情報を用いたGIS面的分析ツー

ルの作成：下水道整備の効果事例」用水と廃水，**57**(2), 132-138 (2015).

② 国内および国際会議での発表

・第14回環境技術学会年次大会（2014年9月、京都府）中村絵理、和田桂子、津野洋「市民が行ってきた河川水質調査結果に関する報告」

・13th IAHR/IWA International Conference on Urban Drainage (2014.9, Malaysia), K.Wada, *et al.*, "Sources of Organic Matter in First Flush Runoff from Urban Roadways"

・第17回日本水環境学会シンポジウム (2014年9月、滋賀県) 和田桂子　他「市街地汚濁負荷の現状と課題」

・第23回日本オゾン協会年次研究講演会(2014年8月、東京都)　齋藤方正 他「マイクロバブルオゾン処理におけるオゾンの溶解・消失特性および有機物の分解特性」

・第49回日本水環境学会年会 (2015年3月、石川県)

　和田桂子 他 「降雨時における路面排水と車輌流出水の水質汚濁特性」

　中村絵理 他 「市民の調査隊による河川水質調査の活動報告」

③ その他（学術関係、講演活動など）

・放射性物質動態の文献調査検討委員　環境省 平成26年度調査業務

・DIPCON Asian Regional Conference, Organizing Committee 2014年9月3-4日

・第17回日本水環境学会シンポジウム実行委員　2014年9月8-10日

・水資源研究院（VAWR - Vietnam Academy for Water Resources）2014年8月26日

・国際湖沼委員会（ILEC, JICA）水質保全研修コース「琵琶湖・淀川流域の水質保全、水質浄化技術」2014年11月17日

・連携協定記念シンポジウム記念講演「琵琶湖・淀川の水環境をめぐる課題について」2015年1月30日

・日本実験力学会ー産学連携センター・環境工学分科会連携セミナー「琵琶湖・淀川の水源水質課題＆水処理におけるオゾン処理効率の改善」2015年3月22日

・環境技術学会誌　企画編集「特集のねらい：湖沼をめぐる環境と課題」7月号.

・用水と廃水　今月の話題「一期一会の縁に想う」Vol.56, No.2, pp.841 (2014).

（３）学術委員会の開催

水質保全のために実施している調査研究の現状を報告し、学術委員から幅広い指導・助言を得た。

・開催日：平成２６年１２月２５日

・会　場：エルイン京都

・議　題：

①水質保全研究助成について

②水質保全調査研究について

（４）琵琶湖・淀川水質浄化研究所報告の公表

平成25年度の調査研究成果や活動実績についてとりまとめ、平成26年度BYQ水環境レポートに掲載した。

２．　水質保全広報・啓発事業

（１）ＢＹＱ水環境レポート公表による水環境情報の広報

琵琶湖・淀川流域における水利用、水質、水質保全施設等々の情報を総合的に網羅した年次報告書「BYQ 水環境レポート」を、継続して発行・公表している。

平成26年度は、平成25年度版を作成し、関係機関や図書館等に配布するとともに、幅広く一般広報する目的から、ホームページにも「琵琶湖・淀川流域の水環境の現状」として掲載した。

（２）ＷＡＱＵ^2（わくわく）調査隊による水環境保全の啓発

身近にある湖沼や川の状況を、流域に住む住民自らが主体的に出向いて調べることにより、その水質に興味を持ち、水に親しみを感じ、さらに水環境について考えてもらうきっかけづくりを目的として実施している。5月の調査では「身近な水環境の全国一斉調査」にも参加した。

・平成26年度：隊員数 207人、調査地点281カ所(うち２回参加： 168人)
・調査日　　：平成２６年５月２４日、１１月２２日

（３）ＢＹスタンプラリーによる水環境保全の啓発

流域に住む住民が水環境の保全活動に興味を持ち、参加するきっかけとするとともに、活動団体の相互コミュニケーションの進展と連帯感の醸成を目指すために、NPO等の協賛のもとに実施している。

・平成26年度：協賛施設 22施設、協賛団体 NPO・市民団体等 55団体
・参加者数　：　87人

（４）琵琶湖・淀川流域の広報・啓発のための水情報冊子「散策ブック」の発行

流域内の河川について、その歴史や見どころなどを紹介する情報誌を企画・編集・発行している。

平成26年度は「高野川（京都府）」、「天野川（大阪府）」、「伏見の川・醍醐の川（京都府）」、「寝屋川（大阪府）」、「安曇川（滋賀県）」の５冊を発行し、関係機関に配布するとともに、幅広く一般広報する目的からイベント等で配布、また、Ｗｅｂページ上にも掲載した。

（５）出展・出前講座等

・BY展（８月４日～２５日「川の駅 はちけんや（大阪市）」）
・マザーレイクフォーラム（８月２３日「コラボしが21（大津市）」）
・民間企業向け研修「琵琶湖・淀川流域における水源保全と水質課題、上水処理について」（平成26年10月10日）
・びわ湖環境ビジネスメッセ（10月22日～24日「長浜ドーム（長浜市）」）
　※琵琶湖・淀川流域ネットワークと共同出展
・来て見て体験in村野浄水場（11月2日「大阪広域水道企業団村野浄水場」）

・すいたシニア環境大学講座（平成27年2月4日）

３．　水質保全活動支援事業

平成21年度より、地球温暖化や微量有害物質の問題等、琵琶湖・淀川流域が抱える水質保全の課題解決に資することを目的に研究助成を実施している。また、平成26年度から、琵琶湖・淀川流域で生活する小学生から高校生の年齢の子どもたちやＮＰＯ法人等が行う水質保全活動を対象にした活動助成を開始した。

（１）水質保全研究助成

平成26年度は、（独法人）大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪大学大学院薬学研究科、大阪府立大学大学院生命環境科学研究科、京都大学大学院工学研究科、大阪薬科大学大学院薬学研究科、京都府立大学大学院生命環境科学研究科、京都大学大学院工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター（2題）、立命館大学薬学部、関西医科大学医学部の10件を選考委員会にて採択した。

助成した研究内容について３月に報告会を開催し、幅広く助成成果についての知見共有を図った。

【平成26年度研究テーマ】

① 水系水質管理のための有機性汚濁指標とその代表性に関する研究
② 琵琶湖・淀川流域の水質・底質中の微量有害物質の挙動把握および分析手法の確立等に関する研究
③ 琵琶湖・淀川流域における大腸菌などの病原性微生物の動態把握と削減技術に関する研究

【成果報告会】

・開 催 日：平成２７年３月５日
・会　　場：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）
・参加人数：行政、事業体、企業、団体、一般市民等　約50名

（２）琵琶湖・淀川こども水質保全活動助成

次世代の水質保全活動の担い手の育成を進めることを目的に、琵琶湖・淀川流域の小・中・高・特別支援学校の子供達、NPO法人、市民団体等が行う「水環境について知り、理解する活動」、「水質の保全・改善に関する活動」で、次の視点・内容を満たす活動12件を選考委員会で採択し、助成を行った。

(1)　琵琶湖・淀川流域をフィールドとした体験的な学習活動が含まれること
(2)　上流・下流のつながりなど広域的な視点があること
(3)　今後の水質保全活動の参考となるような創意工夫があること

平成26年度は団体活動への取材活動を通して活動レポートをとりまとめ、Ｗｅｂページに掲載するとともにイベント等で配布した。